



BUN Café OPEN 本日開催!

文学部教授らによる ガールズトーク



大田先生(上)、松田先生(右)、
久保先生(左)、3人並んで(下)
おだやかなムードで会話がはずむ

中央大学文学部教授らが学生と授業以外で交流する場「BUN Café」(2016年・第2回)が7月7日に開催された。テーマは「女同士なら分かりあえる?」

多摩キャンパス文学部事務室前・掲示スペースが会場だ。コーディネーターに大田美和教授(英語文学文化専攻)。ゲストは松田美佐教授(社会情報学専攻)、久保尚美准教授(英語文学文化専攻)の2人。

通りかかった学生がトークを聞いて思わず席に着くシーンが再三見られた。

「BUN Café」は文学部の13専攻の教員らを中心としたトークイベントで、年5回ほど開催されている。

毎回好評で、この日は3人が好

きな音楽、映画などを互いに披露した。大田先生がずばり聞いた。「久保先生ってどんな人」

聴講者も身を乗り出した。久保先生がマイクを持った。「大学の学部での専攻はスペイン語、ボサノバが好きです」。この返答をきっかけに、ご推奨の音楽が流れた。会場は一転、南米ムードだ。

松田先生は、英国のロックバンド「ポリス」を聴いて洋楽に関心を持ったという。来日時はコンサートへ出掛けた。

米国の人気歌手プリンスも好きで、ヒットアルバム「パープルレイン」は大のお気に入り。4月、プリンス急死のニュースには「ものすごいショックでした。青春が消えていったよう」と寂しげに話した。

会場では宝塚歌劇のプログラムや先生の翻訳書などが回覧された。

宝塚のジェンダー分析もされたが、先生たちとカフェで話している感じで楽しく聞けた。

トークは約2時間。先生たちの意外な一面がみられ、新たな交流の場には笑顔と笑いがたえなかった。

次回開催のお知らせ

- 日時 11月24日(木) 15:15~17:25
- 場所 文学部事務室前・掲示スペース
- テーマ 「こころ、文学、心理学」
- ゲスト 富田拓郎先生(心理学専攻)、ミカエル・フェリエ先生(フランス文学文化専攻)

フェリエ先生の『フクシマ・ノート——忘れない、災禍の物語』(新評論、2013年)を富田先生はどう読んだのか? 人間の悲しみと喜びと文学と心理学の関係について考えましょう。